

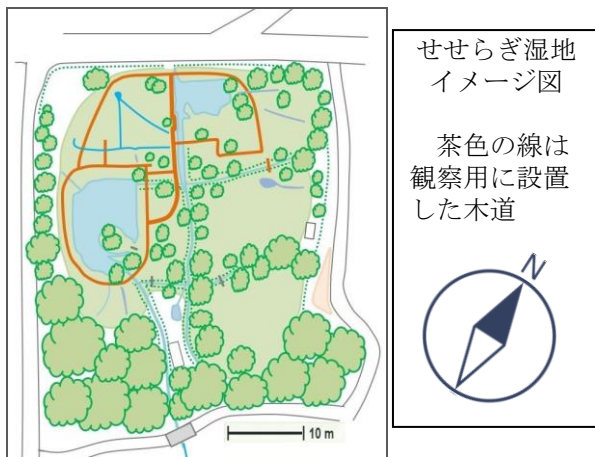
小幡緑地・せせらぎ湿地（湿地シリーズ6）

名古屋支部 平山 希能

1 せせらぎ湿地

「愛知守山自然の会」が自然観察会や保全活動などを行っている名古屋市守山区の小幡緑地（本園）は、粘土質を多く含む猪高部層の上に唐山層が薄く覆っています。そのため、地面を少し掘り返すと水が滲み出してくる場所がいくつかあります。

そんな場所の一つが、せせらぎ広場の北側にある「せせらぎ湿地」です。



ここはかつて一面が湿地でしたが、1960年頃の公園整備で、園路に水が溢れないように水路と土手が設けられました。その後遷移が進んで湿地の植物が減少していましたが、2004年に「愛知守山自然の会」が設立され、湿地の保全活動が始まりました。

2 保全活動

遷移を押さえ日照を確保するための草刈りや周辺の樹木の剪定・伐採作業と、観察用木道の保守点検が主な保全活動です。



初夏には湿地外から侵入する植物を刈り取り、初冬には湿地の富

栄養化を防ぐために枯草を除去します。

観察用の木道は天然木を使用しているために劣化は避けられず、定期的な点検や取り替えが必要となりますが、人手不足もあり、一部を人工木に代えています。



保全作業の一環で耕耘作業を行った後、埋土種子の発芽が増えたので植生調査を行い、湿地性の草本類では約30種類を確認。

3 保全の後のお楽しみ



10月上旬の自然観察会では、せせらぎ湿地のシラタマホシクサとスイランの花を見てもらいました。4月にはハルリンドウ、6月にはトウカイコモウセンゴケ、7月下旬にはサギソウ、9月にはコガマなどの花だけでなく湿地に集まるさまざまな生物たちの営みを観察する楽しさを味わえます。

さて、先日は会で購入した実体顕微鏡で、刈り取ったシラタマホシクサの花を拡大して見ました。これは何でしょうか。またひとつ、自然の不思議を見つけました。

